



### 城山方面から北田交差点を望む

# 昔

昭和27年頃



# 今



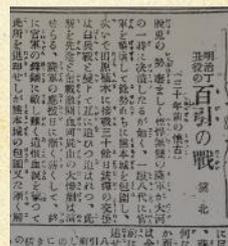
戦後10年足らずの北田商店街。戦後の活気が漂う写真です。写真屋や時計店、クリーニング店、洋服店、帽子屋、農機具店、旅館などがひしめき合っています。中央奥に見えるのは旧鹿屋市役所。道路には三輪自動車や馬車の姿も見えます。通りのかたちは現在と大きく変わりませんが、街並みは大きく変わりました。



昔、鹿屋で起きた出来事にクローズアップ！

## カノヤタイムトラベル

### 官軍が大敗した百引の戦い



明治40年7月7日の鹿屋島新聞（南日本新聞の前身）。30年前の百引での激戦を回顧している。

NHK大河ドラマ「西郷どん」もいよいよ佳境。舞台は西南戦争へと向かいます。明治10年2月に勃発した西南戦争は明治初期の土族の反乱としては最大規模で、日本史上最後の内戦とも言われています。鹿児島・熊本・宮崎・大分の各地で、西郷隆盛を総大将とする西郷軍（薩摩軍）と、明治政府軍（官軍）とが激戦を交えました。7月には大隅半島の中部でも戦闘が激化します。本営を高須に置き高須に向かった官軍と、これを阻止しようとした鹿屋・高隈・百引の諸郷士からなる薩摩軍が高隈で遭遇。戦闘が開始されましたが、圧倒的な戦力を誇る官軍を前に薩摩軍は壊滅し、7月5日、官軍が百引まで進軍しました。



輝北総合支所後方に見えるのは、官軍が駐屯していたとされる西原城跡。

そこで、7月8日、都城の薩摩軍は、恒吉（現・曾於市大隅町）に駐屯していた隊に、百引にいる官軍を襲撃させます。薩摩軍は武器・弾薬ともに不足し刀と小銃だけでの戦いでしたが、四方八方からの奇襲に、土地勘の無い官軍は狼狽、大敗を喫し、敗走しました。この百引の戦いで、薩摩軍が負傷者8人程だったのに対し、官軍は100人近くの死傷者を出しました。岩川（現・曾於市大隅町）の官軍墓地にある約80基の墓の半数以上が百引の戦いによる戦死者のもの。このように官軍が完膚なきまでに大敗したのは、ほとんど例がありません。原因は官軍が連戦連勝中でおごりが生じ、油断していたためとも言われています。